

# 福島小だより

学校通信



めざす児童像：よく考え 心やさしい 元気な子  
令和4年12月1日 第9号

甘楽町立福島小学校  
校長 中島 剛

## ○季節は秋から冬へ ～一段と寒さが厳しくなります。健康管理にご留意を～

深まる秋を迎え、読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋、芸術の秋と、いろいろな秋の楽しみ方がある中で、皆様はどのようにお過ごしでしょうか。

今年もあと1ヶ月となりました。昔から12月を師走と呼びますが、「師走」の由来は、師(お坊さん)がお経をあげるために、いそがしく走り回る姿から生まれたそうです。年末が近づくと何かと慌ただしく、時が早く経ってしまうように思います。

新型コロナの感染拡大も留まる所を知らず、第8波を危惧する声も聞こえています。子どもたちは、今まで通り感染対策を取りつつ、2学期のまとめを行っています。保護者の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。

## ○なかよし旬間 ～自分も周りの人も、大切にすることを考えた期間です～

「なかよし集会」(児童会本部役員の企画運営)では、まず、自分らしく生きる3つの権利(安心・自信・自由)について説明がありました。そして、福島小のキャラクターのお面を被って登場し、安心・安全で楽しい学校にするために、 yakudarts は「自分らしく生きる、自分の意見を言う、自分を大切にする」、福キタールは「周りの人を大切にする、感謝の気持ちを言葉にする、困っている人がいたら声をかける」ことなどをポーズを決めながら訴えました。これを受けて校長は「学校は正義が勝つ場所」と語り、正義が勝つとは、正しいことを正しいとはっきり言うこと、また、ダメなものはダメと胸を張って言うこと。いじめは絶対にダメ。いじめのない学校にするにはどうしたらよいかを全校児童に問いかけました。



「人権講話」(富岡人権擁護委員の講話)では、1年生と4年生を対象に、スライドの物語を視聴しました。子どもたちは物語に出てくる動物たちの気持ちになって、命を守ることや仲間を思いやること、迷惑をかけたならきちんと謝ることの大切さを学びました。また、困った時は誰かに相談したり、勇気を出してはっきり言ったりすることの大切さにも気づきました。

「なかよし読み聞かせ」(5年生の企画運営)では、縦割り班ごとに、5年生が自分たちで選んだ思いやりや親切についての絵本を他学年の児童に読んで聞かせました。物語を聞いた児童は、一人ずつ絵本の感想や気づいたこと、友達への思いやりや感謝の気持ちなどを発表しました。



「なかよし話し合い」(6年生の企画運営)では、まず、6年生が身近な学校生活の場面を劇



にして発表しました。テストの点数で友達を非難したり、サッカーの負け試合を友達のせいにしたたり、下校途中に友達を仲間外れにしたたりと、普段起こるかもしれない場面を演じて、こんな時どうするかを下級生に考えさせました。次に、下級生がその劇に加わり、その場にいたらどうするか、自分の考えをセリフで発表しました。下級生はそんなことを言ったらダメだとか、仲間外れはよくないとか、思いやりのある言葉を言いながら演じていました。最後に、振り返りでは、友だちを大切にしたい、誰とでも仲良くしたいなどの意見をワークシートに書き込んでいました。